

■ カリキュラム・ポリシー

■ 看護学科

1. 教養の涵養によって、異なる文化や社会を理解し尊重していく態度を養い、実社会と結びつく確かな基礎学力を育成し、看護学の専門教育に繋がる教養教育科目を配置する。
2. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断を強化するため、人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進を、看護学の観点から理解できるよう配置する。
3. 地域における多様な場で生活する対象者及び家族に看護を提供するため、人間関係を形成するコミュニケーション能力を育成し、専門職として必要とされる看護実践能力を獲得することを目指して段階的な教育課程を編成する。
4. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながらシームレスなケアを提供するための基礎的能力を養うことができるよう編成する。
5. 主体的な学修を重視し、3年間を通し専門職業人として看護の質向上をめざして研鑽し続ける能力を養うことができるよう編成する。

■ ビジネスキャリア学科

1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養するべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない共通の内容を基本とした、教養教育分野を配置する。
加えてビジネスキャリア学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。
2. 専門教育分野では、基礎科目、基幹科目、展開科目で編成し、ビジネス社会に必要とされる基本的な知識と技能の修得を目指す教育を行う。基礎科目ではビジネス社会の基本的素養であるビジネスマナー、人間関係の構築やホスピタリティマインドを涵養する科目を配置する。基幹科目では経営学を中心とした現代ビジネスの理解に不可欠な科目群を配置する。展開科目では基礎科目及び基幹科目を受けて、各種推奨履修モデルを中心として、発展的にビジネス分野について学修を深める科目群を配置する。履修モデルにかかわらず、各モデルに属する科目群は選択科目として配置する。

3. 演習分野では、1年生の前期から2年生の後期まで、毎学期、教員が学生を身近で指導できる少人数のゼミ科目を配置するほか、キャリア形成支援に関わる科目を配置する。
4. 地域社会に貢献できるビジネス実務能力を身につけられる科目を配置する。

■リハビリテーション学科 理学療法学専攻

理学療法専門教育における学修成果を確保する。

1. 幅広い教養を修得し豊かな人間性やコミュニケーション能力を養う教養教育分野を配置する。
2. 入学早期からリハビリテーション医療専門職として必要な知識を高めるため、解剖学、生理学、運動学および理学療法概論などの基礎理学療法学や基礎医学科目、臨床医学科目を配置する。
3. 理学療法専門教育科目として、主に、理学療法評価学、骨関節障害理学療法学、神経障害理学療法学、内部障害理学療法学などの臨床的科目についてその知識と実践的な治療技術を学修するための科目を配置する。
4. 理学療法専門教育科目の学修成果を確認および実践するために、病院などの臨床実習施設において、臨床実習科目を履修する。また、臨床実習をとおして、理学療法士としての高い倫理観を持ち、その役割を理解する。
5. 地域社会に貢献するために、地域理学療法学や保健医療福祉連携論などの科目を配置し、地域社会での理学療法士の使命と役割について理解する。

■リハビリテーション学科 作業療法学専攻

作業療法専門教育における学修成果を確保する。

1. 幅広い教養を修得し豊かな人間性やコミュニケーション能力を養う教養教育分野を配置する。
2. 入学早期からリハビリテーション医療専門職として必要な知識を高めるため、解剖学、生理学、運動学および作業療法概論などの基礎作業療法学や基礎医学科目、臨床医学科目を配置する。
3. 作業療法を行う上で必要とされる実践能力の基礎となる専門的知識や理論、身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域、高齢期障害領域にかかわる技術を修得し、様々な事象に対して検証を加えることができる能力を育成するための科目を配置する。

4. 作業療法専門教育科目の学修成果を確認および実践するために、病院・施設・地域などで臨床実習科目を履修する。また、臨床実習をとおして、作業療法士としての高い倫理観を持ち、その役割を理解する。
5. 地域社会に貢献するために、地域作業療法学や保健医療福祉連携論などの科目を配置し、地域社会での作業療法士の使命と役割について理解する。

■こども学科

1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養するべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない共通の内容を基本とした、教養教育分野を配置する。
加えてこども学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。
2. 考える力、感じる力、想像する力、判断する力、表現する力を高める科目を設置する。
3. 教育・保育の全体的な構造の把握と、こども理解の深化を促し、実践的指導力の育成を目指した教育を展開する。
4. 身につけた知識と技能を活用し、課題の解決に結びつけられる実践力の修得を目指し、実習関連科目を体系的に配置する。
5. 幼児教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力の養成と、実践的な能力及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目的として、個々の学生の資質能力を見極め、その力を伸ばすための基礎演習を設置する。

■歯科衛生学科

1. 現代社会が求めるコミュニケーション能力と論理的思考力の基礎を養い、かつ、人として豊かに生きていくための土台を成すことを目指した科目群として教養教育分野を配置する。
2. 歯科衛生学の専門領域科目に係る科目群として専門教育分野を配置する。専門教育分野には、実践能力の基礎となる専門的知識や理論及び歯科衛生を取り巻く保健・医療・福祉について講義を中心に学ぶ専門支持科目群と、講義・演習・実習の体系的な配置により専門支持科目で学んだ理論を技術と統合していく専門展開科目群を置く。
3. 専門展開科目群の中には、理論と技術を実践につなげることを目的として臨地実習科目を配置し、3年間を通して段階的に展開する。

■栄養学科

1. 社会人として必要な豊かな人間性やコミュニケーション能力を養う教養教育分野を配置し、幅広い教養教育を展開する。加えて栄養学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。
2. 栄養学科で学ぶ知識・技術の修得を目指し、自ら調べ、考え、まとめ、発表する能力を育成するため、テーマを設けてグループ学修を行う栄養基礎演習及び栄養総合演習を配置する。
3. 栄養士となるため栄養学の幅広い専門的知識と理論を修得するための専門科目として、専門支持科目、専門基礎科目、専門展開科目を配置し、順を追って体系的に学ぶ。
4. 栄養学の理論と知識を基礎に、実践能力・技術を身につけるため実験・実習科目を充実させる。
5. 栄養士に必要な給食業務を実際に経験する科目として校外実習を配置する。

■観光ビジネス学科

1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための適応力を涵養するため、実社会と結びつき、かつ学科の専門分野にとらわれない共通の内容を基本とする教養教育分野を配置する。
さらに教養教育分野には観光ビジネス学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。
2. 基礎科目、基幹科目、展開科目からなる専門教育分野を編成する。基礎科目では観光ビジネス学を学ぶ際に基礎をなす科目群を必修科目として配置する。基幹科目ではビジネス実務能力、ホスピタリティマインドを涵養する科目群を必修科目として配置する。展開科目では基礎科目及び基幹科目を受けて、各種推奨履修モデルを中心として、発展的に観光ビジネス分野について学修を深める科目群を置く。
3. 演習分野では、1年生の前期から2年生の後期まで、毎学期、教員が学生を身近で指導できる少人数のゼミ科目を配置するほか、実践的なキャリア形成支援に関わる科目を配置する。

■現代英語学科

1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養すべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない全学共通の内容を基本とした、『教養教育分野』を配置する。加えて、現代英語学科の専門教育につながる教養教育科目も配置する。
2. 『専門教育分野』は、『専門基礎科目』、『専門展開科目』及び『関連科目』にて構成する。『専門基礎科目』では、「話す」「聞く」「読む」「書く」の英語4技能を中心に、基礎となる科目を配置する。『専門展開科目』は、『専門基礎科目』で学んだことを基盤とし、4技能を統合した実用的英語運用能力を身につける科目を配置する。さらに、ビジネス実務能力を養成する科目を『関連科目』として配置する。
3. 『演習分野』は、1年次前期から2年次後期まで、教員が学生に身近で指導し、個々の学生の資質能力を高める、少人数のゼミ科目のほか、キャリア形成支援に関わる科目を配置する。加えて、リスニング、リーディング、文法、語彙に関するスキルを強化し、総合的に英語力を向上させる科目を置く。

■言語聴覚学科

1. コミュニケーション能力や豊かな人間性を養うべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない共通の内容を基本とした科目群として、教養教育分野を配置する。加えて言語聴覚学の専門教育に繋がる教養教育科目を配置する。
2. 言語聴覚学の幅広い専門的知識と技術を修得するための専門領域科目に係る科目群として、専門教育分野を配置する。専門教育分野は、専門支持科目、専門展開科目、専門独自科目にて構成する。
3. 専門展開科目の中には臨床実習科目を配置し、3年間を通して段階的に展開する。
4. 保健・医療・福祉分野の専門職チームの一員としての実践能力を養い、地域社会におけるリハビリテーションの使命と役割について理解させる科目を配置する。

■救急救命学科

1. コミュニケーション能力と論理的思考力の基礎を養い、実社会と結びつき豊かな人間性を育む科目群として、教養教育分野を配置する。
2. 救急救命学の専門的知識と技術を修得するための専門領域科目に係る科目群として、専門教育分野を配置する。専門教育分野は、専門基礎科目と専門展開科目にて構成する。
3. 専門基礎科目には、救急救命学の専門領域における、基礎的な知識と技術を身につけるための科目を設定する。専門展開科目には、救急救命学の専門領域における、より実践的な知識と技術を身につけるための科目を系統的に配置する。専門展開科目の中には臨地実習科目を配置し、2年間を通して段階的に展開する。臨地実習科目には、講義科目で修得した知識を技術と統合し、チーム医療の一員としての協調性を養う科目と、救急救命の実際を体験する科目を設定する。